

幼き頃の娘達が無邪気に遊び回った 広い土間スペース。新築 10 年目にリノベートし、現在は奥さまが収集した考古資料の展示ギャラリーとして開放されている

普遍の時を重ねる
築 30 年の家

名作住宅 : selection 12

人も風も自由に行き交う 土間リビング

かつてどの家にも大抵あった広い土間。Oさん邸では、暮らしの西洋化とともに次第に廃れたその土間が今も暮らしに生かされている。

一級建築士事務所 飛夢房
+ 北屋建設



母屋とアトリエの間にある中庭。中央の池は、大学教授時代に学生から贈られたオリーブを植樹した際ご主人自ら造池した



(上)土間と隣接のダイニングルーム。味深いダイニングテーブルは、建築現場で職人が作業台として使用していたものをリユース(下右)サンタリーとバスルームの仕切り壁には備前の耐火レンガを採用(下中)無垢板を組み合わせた造作の玄関扉。現在においても色褪せないデザイン(下左)アトリエ内の応接スペース。母屋玄関から中庭を通ってきた風が、奥の片開き窓から抜けていく

陶芸家のOさんが創作拠点を求めて叔父の空き家に移り住み、老朽化した母屋を建て直したのは30年前のこと。「当初は予算に余裕がなく、とりあえず雨風しのげる箱になればいいと思っていた。ただ、岡山は夏はとて暑い。クーラーがなくても気持ち良く風が抜ける家になりたいというのが、唯一のこだわりでしたね。そんなOさんの相談を受けて試行錯誤の末に完成したのが、大棟の屋根がそのまま青空に続くような三角屋根が印象的なこの家だ。玄関正面に突如現れるのは広い土間スペース。新築後10年間むき出しだった壁の柱や筋交いは20年前に漆喰で上塗りした。開校した小学校の廃材を用いた天井板や梁は今もそのまま残されている。ロフトを徹底したがゆえに生まれた個性的な空間は、時にリビング、時に応接間となって使い勝手は抜群。内外を土足で自由に行き来できるため、訪れた客人をそのまま中庭の奥のアトリエに招き入れることもできるし、かつては子ども達の遊び場としても大いに活躍した。そして要はもちろんだ。玄関と中庭を一直線に結ぶトンネル式の動線だ。玄関に集まった風は、対面の開口に引き込まれて家の中を颯爽と吹き抜ける。厳しさを増すばかりの夏の暑さを、今年も心地良く癒してくれるだろう。

詳細を知りたい方はこちら

「普通の時を重ねる築30年の家」名作select

設計・施工 / 一級建築士事務所 飛夢房(とんぼ)+株式会社 北屋建設

岡山市中区平井 7-18-15-11
http://www.tombo-kitaya.co.jp

問い合わせ
☎050-5871-9398

※IP電話など一部の電話からは繋がらない場合があります(携帯電話は可)。繋がりにくい場合は代表番号086-276-3735までおかけください

会社紹介を見る ▶▶P207 特集を見る ▶▶P26

other works



「普通の時を重ねる築30年の家」DATE

家族構成 / ご主人、奥さま
敷地面積 / 630.00㎡
建築面積 / 85.79㎡
延床面積 / 164.31㎡

ホームアドバイザー / 月守 竜平

近年注目される土間を、時代に先駆け復権させたOさん邸。築30年経った現代においても、変わらぬ魅力を放っています。本家の「名作住宅」とは、時代を超えた普遍的な価値を提供できる家だと思っています。



Select.03

旧家に残された巨石を礎石として再利用

土間スペースの柱の礎石に用いたのは、旧家の庭に残されていた巨大な石。状態・強度が確保された再利用材を多用することで、ローコストを徹底した



Select.02

サンタリーの壁材に耐火レンガを採用

アンティークの風合いで近年エクステリア資材としても人気が高まっている耐火レンガ。30年前の当時はコストカットの目的でサンタリーの壁面に採用した



Select.01

玄関から中庭へ家じゅうを抜ける路地風

土間と板間の中央に設けた風の通り道。玄関に集めた風が一直線になって中庭へ抜ける路地風によって、汗したたる猛暑の夏も心地良く過ごすことができる



